

学校改革プロジェクト委員会（研究推進委員）通信

平成29年6月19日

6月12日（月曜日）白鳥小学校において郡上市内の小学校の社会科の先生方が一堂に会する郡上市教育研究会主催小学校社会科研究会が行われました。授業は、「比較」「関連」「統合」を指導のポイントに、小学3年生の「わたしのまち みんなのまち」の単元で行われました。生徒は八幡町の「建物」「乗り物」「土地」「人」の様子を、為真の街並みを散策した経験をふまえたり、既習事項の高鷲町や美並町と比較したりしながら説明をしていました。しかし、生徒によって「多い・少ない」の基準が異なることなどの課題もありました。このような「見方・考え方」というのは、教科の特性を生かした視点としての意味合いもありますが、その生徒のこれまで育ってきた環境で変わってくるものだと思います。ある事実を、生徒が持つ「見方や考え方」でどう捉え、そしてその捉えを、自信を持って他者に発表し、他者の意見を受け入れながら、自らの意見を練り上げていく、という学習活動が、「予測困難な社会」（文部科学省）を生き抜くことができる汎用的な力の育成につながります。

〈根拠を持って説明をする児童〉



〈児童のやり取りを真剣に参観する姿〉



6月15日（木曜日）ふれあい創造館において郡上市小・中学校の研究主任を対象とした研修が行われました。郡上市では八幡小学校・大和北小学校・八幡中学校が研究指定を受けており、それぞれが研究を進めています（資料をご覧になられたい先生は、熊崎まで）。どの学校においても、「実感させながら学ばせる」「表現をすることを楽しむ」「どのような生徒を育てたいかを教員間で共有し、各教科でどのように育てていくか考える」など、第2号に記載した論点整理の図のなかに示されたものが基となっています。

また、その後の交流会では、研究校以外の取り組みを共有しました。郡上市でもルーブリックを用いた評価など、新しい取り組みが始まっています。数年後にはそういった指導を受けてきた生徒が高等学校に入学していきます。これは本校に限らず、すべての高等学校で言えることです。確かな学力（教科本来の知識）を身につけるために、生徒が学びやすい環境を作り出すことが必要となってきます。研究推進委員会が立ち上がった機会に、ぜひ、教材開発・（思考を）アクティブにする学習形態・評価方法などについて学校全体で学んでいきたいと思ひます。

※白鳥中学校の授業見学では、中学校ではどのような授業を行っているのか、本校でどのような授業を行うことで、生徒の学びやすさが生まれるのかを考えながら参観していただけたら、と思ひます。